



豊臣秀吉朱印状 市指定重要文化財（筆跡典籍）

豊臣秀吉が関東の北条氏直にあって発した宣戦布告状で、笠岡市内の個人宅に古くから伝わってきたものです。歴史上有名な古文書ですが、どういった経緯で今日まで伝えられてきたのかは定かではありません。

文章の内容は五力条に分かれており、その中で、北条が関東においてほしいままにふるまい、裁定に違反して真田の城を奪ったこと、天道の正理に背いた氏直は天罰を受けるであらうことを述べ、来年は必ず氏直の首をはねる、と宣言して結んでいます。文末には「天正十七年十一月廿四日 北条左京大夫とのへ」とし、秀吉の朱印が押されています。

同様の朱印状が、伊達政宗・真田昌幸らにも届けられたことが確認されており、秀吉が北条氏直あての宣戦布告状を何通かつくらせて諸大名に配り、小田原出陣の趣旨を天下に公表したことが伺えます。この翌年の天正十八年（一五九〇）、まさに秀吉によって小田原征伐が行われることになるのです。

この文書は明治の頃から注目されており、小田原市でも展示されました。3月には、NHKテレビ「その時歴史が動いた」でも取り上げられます。

歴史を訪ねて…

笠岡市の文化財

展覧会と行事のご案内

特別展

画家の絵手紙
一国画創作協会の画家
たちを中心として
～3月16日(日)

次回展覧会

もりたになんじんし
新収蔵 森谷南人子
3月22日(土)
～4月20日(日)
大井生まれの日本画家、
森谷南人子の新収蔵作品
をお楽しみください。

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>



朝靄 (本栖湖にて)

小野竹喬 作
昭和38(1963)年
29.3×45.1cm

竹喬美術館の光彩 63

「自然はいつでも、ほぼ同じ姿、同じ移ろいで、私達の前にあるのだから、作者の側で云えば、千差万別のものである。一人が感じた事を、も一人が同じように感じているとは思わない。どこかで違っている。それが自然を前にして感じる人間の価値だと云ってもよい。自然は色々の事を人間に教えてくれる」

同じ景色を見たとしても、それぞれの人で見いだす意味は異なっている。また、ひとりの人物が見たとしても、その時々で異なる価値があるだろう。竹喬は、日々見つめる自然の中に、現在の自分を推し量っていたのだろうか。

係から

水を見ることがほとんど無いままに冬が終わりました。家の近くの神社で手水所に張った水を剥がしたり、池の水に石を投げて厚さを確かめるような遊びはもうできないのかもしれない。アスファルト舗装された道ばかりになり、最後に霜柱を踏んだのはいつだったか。冬も様変わりしていくのだと思えば、冬を感じていました。この冬は、皆さんにどのような印象を残したでしょうか。

(良)

今月の表紙

若かったあの頃の記憶が鮮やかによみがえってきます。1月26日、市民会館で「南こうせつ with ウーファン」のうたコンサートが行われました。軽快なトークに懐かしいあの曲、地元コーラスグループとの合唱など盛りだくさんの内容に時の経つのを忘れて、会場を埋め尽くした大観衆は青春時代を懐かしんでいました。



土屋武之

笠原良一

発行日／平成20年3月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp